

第10回えべつ未来市民会議 全体会議の概要

<18:30～ 江別市民会館 37号室>

■開会あいさつ（佐藤部会長）

○今日は、次第にあるとおり6部会の部会長より提言の報告をいただき、その後、皆様から質問をいただきディスカッションをしたいと思う。それから、提言書の全体の調整を行いたい。提言の調整が終わった後、本日は市長に来ていただいているので、市長へ提言書をお渡しし、市長よりごあいさついただきたいと思う。さらに、我々の提言書の内容が行政にしっかりと根付くように行政審議会の開催のご案内をさせていただきたい。

では、さっそく部会長から報告をいただきたいと思うが、これまで部会長同士で打ち合わせやメールによりいろいろな議論してきた。その中で、部会の提言を重視していこうということで、2月から今日まで10回の議論を行なっていることから、各部会の責任においてこの提言書の最終確認をしていこうと考えている。

これまで部会の中ではいろいろな問題がたくさんあり、実際に私たちの提言が本当に受け入れられるのであろうかと考えることもあった。しかし、「協働」の名の下で、「江別市自治基本条例」がつくられてからの初めての市民会議であるので、確実に提言の内容が実現され、そして、これからいろいろな議論が加わっていくものであってほしいと思う。

■各部会提言の報告（6部会）

1【高齢化・市民活動部会：佐藤部会長報告】

- 私たちが議論した中で特に重要であると考えたのが、「若者（学生）から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」であった。その中に、「福祉」、「市民活動（コミュニティ）」、「元気なお年寄り」の内容を含めて議論をしてきた。
- これらの議論の中で、「自治会との連携」、「まちづくり支援事業で他の団体との出会いの場の設定」であったり、「市民活動団体との連携」、「協働するためのコミュニケーションや連携」、「江別で子どもを産んで育てたいと思える医療体制」、あるいは「道立高等養護学校の誘致」、「高齢者・障がい者・子どもを含めたユニバーサルデザインでのまちづくり（福祉環境整備としてのバリアフリー化を含む）」、「市民10人に1人が学生という若い力の活用」、「大学が4つもあることから4大学の連携」、「大学と地域の結びつきにおいて実効性のある政策の提案」、「4大学連携のコーディネーターの配置」、「高齢者が活躍するまちづくり」といったものが特に重要であるという結論になった。
- また、市役所の仕組みづくり、プロの育成、研修、若手職員と市民活動団体が話し合う場が必要であるという提言もあり、6ページに議論の概要、部会の思いを記載したところである。

- まちづくり政策提言の部分では、短期的、中期的、それから長期的な取り組みを記載しており、その中にはハード、ソフト、ハートづくりという切り口で議論してまとめている。
- すぐにでも対応しなければならないことが、短期的なテーマの中に出ているが、システムづくりをどうやっていくかということであり、例示として、「市民及び市民団体、企業、4大学、江別市などの連携・協働によるコミュニティ活性化の中核となる新しい組織の設立とそれを持続するためのシステムの整備」ということで記載している。これは、ハード、ソフト、ハートづくりの最初の部分にそれぞれ掲げた項目である。
- このシステムの整備は、これからいろいろと協働で議論しながら実践をしていくための受け皿になっている。すなわち、市民の方々が、いろいろと議論したり、実践したりすることができる仕組みとなっている。
- その他に、短期のハードのところでは、「高齢者の生活利便性向上・買い物対策」、「高齢者が活躍する場づくり」、「障がい児福祉の充実」、「市民が集まる場づくり」を記載してある。ソフト面やハートづくりの面でも同じような記述としており、長期的には、ソフトの部分だけを挙げている。
- では、実際にどういう風になっていったら良いかということが、11ページから記載してある。市民参加と協働の考え方を基本理念として「若者(学生)から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり」が構築されて、市民及び市民団体、企業、4大学、江別市などの連携・協力によるコミュニティ活性化の中核となる新しい組織『えべつ未来づくりのための「江別版COC(Center Of Community)」』に基づく施策の実施により、コミュニティ活性化に貢献する人づくりと、それを持続する仕組み「Plan(計画)、Do(実施・実行)、Check(点検・評価)、Act(処置・改善)」といった考え方に基づいて、次々と新たなアイデアが市民参加と協働により生まれ、地域の雇用創造、産業の振興、地域の課題解決、地域のイノベーション(改革)の創出を可能にするという思いを描いてある。
- 先ほど話したとおり、ここの部分がいろいろな意見を本当にどうしたら実現できるかという受け皿になる。実際に政策としてこういうものがあるから参加して1年間協働でやってみよう、ということもできるような仕組みを、ここで私たちは考えたところである。
- 15ページのところには、大学生が活動した事例を載せており、その下にえべつ未来市民会議で重視した「江別市自治基本条例」の記載があり、これに基づいて市民参加と協働を推進する仕組みづくりをしっかりと行なっていただきたいと考えている。
- その後に、戦略テーマ実現への方策に向けて記載してあるが、ここでも市民協働のまちづくりということで、「自ら考え、行動すること」、「地域からの新たな発信・自立に向けた改革の取り組み」というように位置づけている。

以上、「高齢化・市民活動部会」の戦略テーマ提言というところを強く話した次第である。

まず、高齢化・市民活動部会のメンバーから補足意見を伺いたい。

<委員補足>

なし。

佐藤部会長：では、他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<高齢化・市民活動部会提言に関する意見>

なし。

2【暮らし・定住部会：千里部会長報告】

- 私も江別市民であるので、これからいろいろな問題をどうしたら良いかということをご一緒にご覧いただきたい。
- 「子育てしやすいまちづくり」、「学べるまち」、「暮らしの情報発信」、「住まいづくり」の4つを戦略テーマ実現の方策として考えてきた。特に江別は、平成17年に人口のピークを迎え、少子高齢化によって人口が減少していくが、子どもと高齢者はセットで考えていかなければならない。高齢者については、「高齢化・市民活動部会」で検討されているということであり、高齢者のことも重要ではあるが、この部会では子育てをメインに検討してきた。
- また、江別には、4大学2短大があり、この人口規模の街にしては恵まれた環境であることから、大学施設の活用や大学間の連携による「学べるまち」ということを考えなければならぬということでも話し合ってきた。
- 市民会議の中で、暮らしに役立つ情報に関しては他の部会からも意見が出ており、役立つ情報がいっぱい発信されているけれども、市民に上手く伝わっていない現状があるため、情報発信の拠点が必要ではないかということが話し合われた。特に、情報発信は、市民が暮らす上で非常に重要なことであり、困難を抱えた時の相談場所などに関する情報を得るシステムなど、いろいろな可能性を含んでいる。赤ちゃんから高齢者まで誰もが長く住みたいと望まれるまちにするという点が重要である。
- 先ほど佐藤部会長からのお話にもあったが、市民の意見を実際に実施するためのシステムづくりが大切であると考えている。自治基本条例もはじまったばかりなので、市民と一緒につくっていかねばならないと思う。特に、市民、自治会、市民活動団体、大学、事業者等と行政とが、共に考え、意見や知恵を出し合いながらその意見を反映させて、具体的に実現させていく仕組みづくりが必要であり、継続的に行なうことが重要であると考えている。
- 具体的な内容を話していきたい。22ページからまちづくり政策提言ということで、短期的な取り組みのハード面では、子どもの成長は早いものなので「子育て支援体制」について記載してある。そして、「情報発信の拠点づくり」、「教育特区などによる魅力ある学校づくり」、「若年層が土地を購入しやすいような仕組みづくり」を提言している。
- ソフトの部分では、4大学2短大があることから、「魅力的な学べるまちづくり」、

そして、「市内外への地域情報・生活情報の発信」、「働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり」としている。

- ハートづくりでは、「子どもをいっぱい産んで育てたいと思えるまちづくり」、「教育環境の充実」、「市内外への地域情報・生活情報の発信」としている。
- 次に 23 ページの中期的な取り組みの部分では、ハード面で「空き地、空き家対策」、ソフト面で「市内外への地域情報・生活情報の発信」、「働きながら子どもを産んで育てられるまちづくり」、「少子高齢化対策」を、ハートづくりの面では、情報発信の拠点が必要ではないかということで「情報図書館を情報の発信源」にできないかということに記載してある。
- 長期的な取り組みとしては、ハード面で「小学校の統廃合は周辺環境も含め、慎重かつ計画的に行う」ことと、「教育環境の充実」としており、ソフト面で「学校を中心としたまちづくりネットワークの構築」、ハートづくりでは「子どもの学力向上」としている。
- 次に 24 ページ以降では、戦略テーマ提言で詳しい内容を記述している。「子育てしやすいまち」ということで、少子高齢化による人口減少が江別でも起きており、その中で安心して子ども産み、育て、仕事ができるまちづくりが、江別市の未来において大切であり、そのために多くの支援体制が必要である。具体的な方策については、25 ページに記載してある。
- 「暮らしの情報発信」では、江別にはいろいろな良い所があるけれども、今回初めて知ったことが多く、情報が伝わっていない、あるいはPRが不足しているのではないか、という意見が多く出されていた。すなわち、情報を伝えるための情報発信の拠点と情報を受け取りやすい環境を整える必要があるのではないかという議論になった。具体的な内容については、27 ページに短期、中期、長期という形で記載してある。
- 28 ページからの「学べるまち」では、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、短期大学が連携し、さらに市民が参加することで、文教のまちとしてのイメージをつくるということとその次のページにかけて記載してある。
- 次の「住まいづくり（定住・空き家対策）」では、どんな状況にしたいかという部分で、江別市の人口減少を止めるためにも、江別に定住するための仕組みづくりや空き家対策が必要である。特に定住では、高齢になっても住むことができるバリアフリー化が必要であり、長年住み慣れた家を手放し、利便性の良い都心のマンションに移るという市民も少なくない。空き家が多くなると治安の悪化や積雪による倒壊の危険も増すので、これらを含めた再利用の仕組みが必要であり、亡くなるまで暮らすことができるようなまちづくりをできればと思う。内容については、31、32 ページに記載してある。

では、暮らし・定住部会のメンバーから補足のご意見を伺いたい。

<委員補足>

なし。

千里部会長：では、他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<暮らし・定住部会提言に関する他の委員の意見>

なし。

3【環境・文化部会：押谷部会長報告】

- これまで部会を5回開催したが、環境と文化というのは大きなテーマである。環境問題は、様々な場面において皆様も関心があると思う。他の部会とも関係の深い内容を扱ってきた。とりわけ江別市は、環境に関する関心や実際の取り組みにおいて道内の他都市と比べても非常に高いと思う。自然環境にしても、野幌森林公園、石狩川などに恵まれた環境のまちであるが、まだ十分ではない部分もあるのではないかとということで提言が出ている。
- 文化というものは人間がつくり出すものであり、往々にして環境を破壊するということがある。そして、環境と文化といういわば対立的な概念だが、昨今では環境と文化が寄り添い、共生していくということがキーワードになっている。この分科会に参加していただいた皆様からも自分の思っている環境や文化の領域から幅広いご意見をいただいた。
- 部会を進める中で4つの戦略テーマに分けたところである。1つは、「環境と共生し、エネルギーの地産地消を目指すまちづくり」である。それから、人間が生きていく上で様々な潤いとして「文化のあるまちづくり」をテーマとして強調してきた。スポーツも生きていく上で重要な要素であろうということで「スポーツ振興による健康なまちづくり」を取り上げている。それと、特別に部会として設けていない内容として、行政サービスのあり方を議論することが必要であるということから、環境・文化部会で「効率的な行政サービスを推進するまちづくり」を挙げている。
- 37ページを見ていただくと、短期的な取り組みから長期的な取り組みまで、それぞれハード、ソフト、ハートづくりとしており、短期のハードでは、「環境と共生した生活空間の創出」、あるいは、新しい文化施設を造ることができればそれに越したことはないが、昨今の厳しい状況から「既存の文化施設の充実」を挙げている。
- 短期的な取り組みのソフト面では、例えば、「まち中の自然の保全・充実」ということや、「環境都市の推進」を挙げている。また、先ほどの「文化のあるまちづくり」に関連して、文化の一つとして音楽をここでは考えており、とりわけ札幌を中心として行われているPMF（バシフィック・ミュージック・フェスティバル）の誘致を考え、生の音楽に小さい頃から触れる機会をより多く持たせられればと思う。
それから、やきもの市などの「文化溢れる環境の整備」であったり、スポーツ振興では「スポーツ活動の推進」、そして行政サービスに関連して「市民自治の推進」ということを挙げている。
- 短期的な取り組みのハートづくりでは、とかく殺伐とした世の中であるので、住んでいる街でゆとりあるほっとした空間をつくり出せないかということで、「ゆとりある生活環境の整備」という意見があり、また、「きめ細かな行政サービスの提供」をここで挙げており、市民と行政のきめ細かな相互交流がなされるべきではないかという意見があった。

- 38 ページの中期的な取り組みの中では、ソフト面で「自然エネルギーの活用」であったり、行政サービスに関して、「財政基盤の強化」であったり、「市民自治の推進」というものが挙がっている。
- それから、長期的な取り組みの中では、昨今、脱原子力発電所ということが様々な場面で登場してくる言葉であるが、先日発表された原子力発電所の危険度で、江別は泊原子力発電所の 30km 圏の外にはあるけれども、自然環境の恵まれた北海道にあって原子力発電所がもたらす様々な影響、そして事故に関わらず、将来的には原子力から新しい自然エネルギーを活用していくことを考えなければならないということである。自然に恵まれた北海道にあって、より環境と共生できる社会をつくっていくことが必要である。それから、「スポーツ活動の推進」では、江別独自の施策によって行なっていけるのではないかと思う。また、先ほどのPMFを中心とした音楽によるまちづくりにより、豊かな心を持ったまちづくりをできないかという意見もあった。
- 40 ページ以降に具体的な内容を記述してあるが、戦略テーマの「環境と共生し、エネルギーの地産地消を目指すまちづくり」では、自然エネルギーの利用や住んでいるまちの景観、あるいは共生という視点で取り上げて記載してある。
- 43 ページには、2 番目の「文化のあるまちづくり」ということでは、PMFを中心とした音楽によるまちづくりができないかという意見や学校で吹奏楽を支援することができないかという意見があった。潤いをもって生の音楽に親しめるようなもの、もちろんPMFや吹奏楽といったクラシックだけではなく様々なジャンルの音楽も含んでいる。
- 45 ページの「スポーツ振興による健康なまちづくり」では、健康な体と健全な精神というのは私たちにとって永遠のテーマであり、日頃から健康増進のためにスポーツに取り組んで健康を促進することが、豊かなまちに繋がっていくことになると考えた。
- 最後に、「効率的な行政サービスを推進するまちづくり」では、他の部会でも行政サービスについて触れられており、「江別市自治基本条例」を踏まえて、今回多くの市民の方に集まっていただいて、いろいろな意見をいただいた。様々な場面で行政のあり方と取り組みを一緒になって考えていく機会を設けていくべきではないかという意見があった。「江別市自治基本条例」により、継続的に今回の未来市民会議のようなものを、何らかの形で今後も市民のためのまちづくりを進めていく上でつくっていくべきであろう、ということで提言をまとめてある。

環境・文化部会のメンバーから補足のご意見を伺いたい。

<委員補足等>

なし。

押谷部会長：では、他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<環境・文化部会提言に関する他の委員の意見>

- 41 ページの「累計降雪量」の岩見沢市の「5年平均」の欄の数値は、誤りであると思う。

押谷部会長：計算したところ、「594.8」であるので訂正していただきたい。なお、部会

の中で、今年の除排雪については、非常に効率的に行なわれていたというご意見があったので補足させていただく。

- 江別市の気温は、市街地で計るのと違い、石狩川の近くで計測しており、札幌と大きく隔たっていて低い数値となっている。「最低気温」の22年度の数値は、桁が違っているのも明らかに間違いであると思うが、観測点は気象庁の問題であるかもしれないけれども、札幌とはマイナス10℃ぐらいの差がある。こんなに江別は寒いのかという印象を与えると思うがいかがか。

押谷部会長：おっしゃるとおりかと思うが、この気象庁の数値は、参考資料としていただきたい。数値の誤りは、訂正しておく。あくまでも気温は、一例ということで考えていただきたい。

4【安全・安心部会：佐々木部会長報告】

- 安全・安心部会は、4回の部会を開催した。51ページの部会長報告にある私たちの想いを主に提言したい。
- 子どもも大人もお年寄りも障がい者も、すべての人が安全で安心に暮らしていけるまにするにはどうすればよいか、ということから議論が始まった。東日本大震災や近年の集中豪雪の影響で、防災や除排雪に関する意見が多く出ており、真剣に議論してきた。防災・危機対策担当の職員にも同席いただいて、江別市の状況をお聞きした。また、環境への配慮から自転車利用者が増加しており、自転車対策についても議論があった。これらが、提言に向けて大きく話し合われた内容である。
- 部会としては「未来に向けた安全・安心なまち江別」をテーマに、防災・交通安全・防犯の観点で「災害に負けないまちづくり」・「マナーと思いやりで事故のないまちづくり」・「安心して暮らせるまちづくり」の3つを戦略テーマとした。除排雪についても市が当然取り組まなければならない問題ではあるが、私たちは雪国に住んでいる以上、雪国では避けることのできない問題であり、江別市が他市に比べて除排雪に関して特別に劣っているわけでもないことから、今回戦略テーマにはしないで、まちづくり政策の中で整理した。
- 議論の中で最も関心が高かったのが、現在整備中の高砂地下歩道についてであった。地下歩道は防犯上問題があり、必要性も低いため事業を中止できないのか、という声が上がった。また、整備した後の防犯対策をどうするのか、といった点に非常に関心が集まった。この点については、6月2日に時間をかけて話し合った。
- ここで分かったことは、高砂地下歩道の事業が北海道の事業であること、そして地域住民からの強い要望で整備するに至ったという経緯であったこと、この2つが明らかとなった。この経緯を踏まえて、この事業を早急に中止することにはならないと思ったが、ここには非常に大きな問題があるのではないかとということを引き出した。
- 1つは、北海道と市が関連する事業を実施する際に、もっと相互に連携を強化していく必要があるのではないかとということである。これは北海道の仕事だ、これは市の仕事だ、と分けて考えるのではなく、どうしたら良いのかと一緒に考えるべきではないかと

いうことであった。

- もう1つは、新たに大きな事業を実施する際に、地域住民だけではなく、どれだけ市民全体に情報を提供したかということである。今回の事業が、地域住民からの強い要望であったということならば、それを市民全体が共有して、地域住民の想いとより良い方策がないのかということ、市民全体で考えることができたのではないかとということである。今回、地域住民の意見にだけ留まったことから、工事を行なっている最中にこのような問題の声が上がったのではないかと思う。
- それを踏まえると、これからは地域住民だけでなく、市民全体に情報を提供しなければならないのではないかと、もしくはしてほしいという強い要望を持ったところである。子どもから大人まで幅広く市民の意向を聴取する機会を設けてほしい。これは、10年経ったら中学生も立派な市民権を持った住民になるのであるから、中・高校生という段階から意見を聴取するいろいろな機会を設けても良いのではないかと考えた。事業をする上では、市民の理解が得られたところで事業を実施すべきではないかと考えた。
- 但し、その際には、単に行政任せにはしてはいけないものであり、行政と対等に議論できるように市民もまちづくりに関心をもって参画していかなければならないと思う。特に、防災や防犯に関しては、地域住民等と行政が協働で取り組んでこそ真価が発揮できるのではないかと考えた。
- これからの安全・安心なまちづくりに向けて、行政がもっと広く市民の意見を取り入れる仕組みをつくとともに、市民の自治意識を向上させ、市民と行政が協働で取り組んでいかなければならないと改めて感じたところである。
- そこで、52ページの短期的な取り組みの中に、ハード、ソフト、ハートづくり、そして、中期的な取り組み、長期的な取り組みというように書かせてもらったが、この「安全・安心部会」では、長期的な取り組みということはないのではないかと考えた。やはり、短期から中期的な取り組みの中で取り組まなければならないことであり、長期の取り組みの中では、安全・安心をPRするというシティプロモートを記載するだけにしてある。
- このまちづくり政策提言のところには、短期的な取り組みのハード面ということで、「耐震化の推進」、「避難所の充実」、「備蓄資材の充実」を挙げている。これらの後ろに記載してあるアルファベット（A）は、次の戦略テーマ提言（A）の中に具体的にこのように取り組んでほしいということで「戦略テーマ実現への方策」のところにきちんと記載してあるので対比していただきたい。
- 「耐震化の推進」、「避難所の充実」、「備蓄資材の充実」、「防災マップの充実」、「洪水対策の充実」を短期的な取り組みのハードのところに記載してあるが、先ほど申し上げたとおり、防災担当の職員ともお話をさせていただいた中で、決して道内の市の中で江別が劣っているわけではなく、先進的に防災に関して取り組んでいる姿勢が見られるところである。ただし、これは十分にやったとしても100%ということはないので、今後も先進的な取り組みについて心を持ってやっていっていただきたいと提案したい。
- 「一次救命の充実（消防・救急の充実）」についても、江別では消防と危機対策担当

の職員との連携が非常に良くできている。ただ、警察との連携ではどうなのだろうかと思ひ、もう少し横の連携が取れるような充実をしてもらいたいと提案したい。これは、(B)の戦略テーマのところに記載してあるが、具体的にどう行ったら良いかということでは、例えば、自転車で走って良い歩道なのかが分かる看板を整備してはどうかということや、大学生が多い大麻地区をモデル地区として先駆けた取り組みをしてはどうかということに記載させてもらった。

- 次に、短期のソフト面の取り組みであるが、「防災体制の強化」、「防犯対策の充実」、そして「行政と市民の情報の共有」、「避難対策の充実」、次のページの「市民と行政の協働による安全・安心なまちづくりの推進」、「災害時の情報伝達」ということを記載してある。特に、この中の「防犯対策の充実」に関しては、先ほども申し上げたとおり高砂の地下歩道の防犯対策について、それから子どもが安心して遊べるような公園の防犯対策として、58 ページに方策を記述してある。特に、高砂の地下歩道については、利用者である江別高校の生徒と一緒に地下歩道空間の防犯ということに力を注げないか、というような方策を記載した。
- また、「災害時の情報伝達」については、先ほど「暮らし・定住部会」での実現の方策の一つに、ミニFMの開設等が出ていたが、こういうものを他の部会の内容と連携できるようにしてほしいと思う。
- 短期のハードづくりの部分では、「市役所の組織内の連携及び他の機関等との連携強化」、「わかりやすい情報発信」、「防災教育・防災訓練の充実」、「地域内のコミュニケーションを円滑にし、災害時の支援・連携を充実」すること、「自転車利用者のマナー向上」を挙げている。
- この「市役所の組織内の連携及び他の機関等との連携強化」について、市民が防災意識を向上させるためには、今の市の職員体制で十分なのだろうかと考えた。職員を配置しなければならないところにはしっかり職員を配置して、防災意識の向上を図る防災教育や、まちづくり意識の向上を図ることなど、そういうところに専心できる職員の手厚い配置が必要ではないかと考える。防災では、ハード面のことばかり言われているが、ソフトもハードも一緒になって今の職員体制でやっていくことが、とても無理があるのではないかと感じるところがある。そのため、教育という面にはお金をかけても良いのではないかと思う。メリハリのある市役所内の調整、人事配置をしていただきたいと考えたところである。
- 中期的な取り組みと長期的な取り組みは、時間の都合で割愛させていただくが、この提言書の内容を見ていただければ、私たちの考えが分かると思う。

では、安全・安心部会のメンバーからご意見を伺いたい。

<委員補足>

なし。

佐々木部会長：他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<安全・安心部会提言に関する他の委員の意見>

なし。

5【まちづくり部会：隼田部会長報告】

- まちづくり部会は、合計5回の部会を開催した。62 ページにこれまでの概要と思いを記載した。まちづくり部会は、テーマがどこまで含むのか非常に分かりづらい部会であり、他の部会と最も密接に関係のある部会ではないかと思う。その中で、参加していただいたメンバーから意見をいただき、時には意見を戦わせながら、部会を開催した。
- まちづくり部会として基本に据えておきたいことは、少子高齢化がますます進展し、経済成長もこれからはなかなか見込めない状況の中で、この2点を前提に議論を進めないわけにはいかなく、厳しい財政基盤の中でどのようなまちづくりが現実的に可能なのだろうかというところにフォーカスを当てて、議論を行ってきた。
- その結果、短期、中期、長期の取り組みにすべて関わってくる内容で、「市民協働のまちづくり」を大きな柱として挙げた。これは、他の部会でも同じように挙げられていた大きなテーマであると思う。今の「安全・安心部会」での問題提起として挙げられていた内容で、市民がどれだけ自ら積極的・主体的に参加していくことできるのかというところがとても重要ではないかという議論がなされた。
- 二つ目の柱として、現在の経済情勢や少子高齢化を考えた場合に、サービスがある程度集約化できて、住んでいる方が快適に住める方針というものを考えなければいけない。江別は、幸いなことにJR駅という核があるので、「駅を中心としたコンパクトシティ化」ということを考えても良いのではないかということになった。
- 「駅を中心としたコンパクトシティ化」というのは、先ほどの「暮らし・定住部会」の報告の中でもあったが、高齢化によって、住み慣れた場所・離れたくない場所でも離れなければならない人が増えてきた。多くの方が、特に大麻地区の方が、札幌へ転居してしまう。どうせ転居するのであれば、駅周辺にいろいろな利便性を集約してあげることで、同じ江別の中での人間関係を継続したまま、そこに住み続けられるという意味での「駅を中心としたコンパクトシティ化」ということを議論してきた。
- 一方で、すべての方が引っ越しをするわけではないし、交通の便が悪くても自家用車があるため、あえて自然を満喫したいなど、いろいろな理由で郊外に住みたいという需要もあると思う。そういった中で、今の江別の公共交通ネットワークは非常に厳しい状況に置かれているので、交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要の対応をしっかりと考えていかなければならないのではないかと議論が進んできた。
- 短期的な取り組みで、「市民協働のまちづくり」というのは、どのまちでも流行っているが、すぐにできるわけではない。「市民協働のまちづくり」が、やり易くなるために市民の皆さんがたくさん参加できる小さな仕掛けづくりを次々に積み重ねることで、協働のまちづくりを醸成していきたいということになった。例えば、小さな緑化やまち歩きイベントのようなものを計画して、今すぐにでもできるイベントを積み上げていって、市民みんなで自分の住んでいるまちのことを今一度観て、考えて、行動を起こしたら良いのではないかと議論であった。
- その上で、中・長期的には、コンパクトシティ化と公共交通の再構築化を行うことで、

- より住みやすい江別のまちをつくることができるのではないかと意見がまとまった。
- 具体的な内容は、63 ページから記載してあり、先ほどの3本柱が、短期・中期・長期の取り組みの中でそれぞれ何らかの形で継続していかなければならない。そして、それ以外に、例えば、歩行者と自転車の安全を早急に確保しなければならなかったり、コンパクトシティに向けて動く以前に、まさに壊れようとしている駅周辺の状況があるので、駅周辺を活性化するような対策を考えなければならぬ。直近の問題も意識しながら、まちづくりに取り組んでいく必要がある。
 - さらに、市街地のバリアフリー化でや農村地区の住環境整備ということも急を要するような要望があると聞いているので、そういうところにもきちんと目を向けていくべきであるという話があった。
 - 一方で、ハードというのはお金がかかるので、ソフト面やハートづくりの面でいろいろ考えた。先ほどの3本柱の他に、他の部会でも同じように出ていた地域情報の発信ということが、やはり重要であるという意見が出ていたし、農村地区の住環境整備を考えると、農業を営んでいる方の世代交代が上手くいかないといったことから、就労支援対策も行わなければならないという話があった。
 - さらに、江別は、札幌市という大都市のすぐ隣にあって、駅周辺はそれなりに便利な状況になりつつある中で、他方で農村地区もある。その「都市と農村の調和」ということをしっかりと意識しながらまちづくりを進めていく必要があるということが議論された。
 - また、「学生の力を活かしたまちづくり」であったり、「財政負担の少ない市民協働のまちづくり」といったことをしっかりと取り組んでいこうということもあった。
 - 次に、中・長期的な部分であるが、多くのものは短期の内容を積み上げていくべきものであるが、中期の取り組みの中には「人口減少への対応」ということで、市街地を広げるような新興住宅街の開発は、考えた方がよいのではないかと議論があった。先ほど出たような住み替え需要に対して、空き家対策という部分できちんと新たな人口を盛り込むような方策をソフト面で考える必要がある。
 - そういうことと絡んでくるが、魅力的なまちづくりは、行政に任せっ放しにするのではなくて、市民が自ら植樹をしたり、自分たちでまちをきれいにしたりすることも大事であろうということで、ハートづくりの部分で「住環境の整備」を挙げている。
 - 66 ページ以降に今申し上げた議論の内容を記載してある。最後に少しお時間をいただきたい。今回私たちの部会で議論をしていて、私が部会長を仰せつかって感じたことは、今回のこの市民会議は画期的な会議であるということである。市民の方が委員として参加されて、いろいろなことが議論されたことは画期的であったが、その一方で、部会の最終回に傍聴されていた方から感想ぐらい言わせてほしかった、という意見をいただいた。傍聴者は、こういう会議では発言権がないため、きっぱりとお断りしたが、傍聴者という立場ではなくて、これから市民協働を推し進めていくのであれば、いろいろな形で参加できるまちづくり、そして利害関係者であってもいろいろな方たちが直接意見を

言える場というものを継続的に設けることが、市民協働のまちづくりを醸成していく上で、すごく重要であると思う。今回の市民会議はスタートラインなので、いろいろなまちづくりの施策が行われる中で、いろいろな機会をご検討いただきたい。

まちづくり部会のメンバーから補足意見を伺いたい。

<委員補足>

なし。

隼田部会長：他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<まちづくり部会提言に関する他の委員の意見>

なし。

6【地域産業部会：河西部会長報告】

- 地域産業部会では、全部で5回の部会を開催した。まず、目的としては、儲かる地域、儲けられる策を考えるということであるが、こう言うと金の亡者のように聞こえるが、現在の江別市では雇用状況が厳しいということを知った。やはり、雇用を生み出すにはきちんと稼げる地域にしていけないといけないのではないかと。但し、従来のバブル経済だけを強調し、競争に走って敗者と勝者を生み出すようなものでなく、違った意味での儲かる地域にしていかなければならない。
- 実際に地域産業をつくっていくための理念として、一つは人と環境にやさしいこと。先ほど雇用の状況が厳しいと言ったが、委員の皆様からは、若者だけではなく高齢者、そして女性が再就職する場合も厳しいと聞いた。そういう方々が、自分のやりたいことについてワークライフバランスを考えながら働いていける。そういう産業をつくっていかなければならない。まずそれが人にやさしいという部分である。江別に住んでいる方も高齢化していき、そういう方々にやさしいビジネスを提供していくことが必要ではないかと思う。
- それと同時に、先ほど「環境・文化部会」からも話があった内容で、環境にやさしいということが、21世紀のキーワードとしてあらゆる活動、産業であっても外せないキーワードであると考えている。
- 具体的な手法としては、一つは、ネットワーキングや協働。今まであるものを上手くつなぎ合わせながら、そして協力しながら新しい価値を生み出していくこと。二つ目としては、経営者の方も加わっている地域産業部会らしくマーケティングというキーワードである。この二つのキーワードに基づく手法を戦略テーマ実現の方策の中に入れて議論が進んできた。
- 戦略テーマに関しては、5本となっているが、当初4本であった。最初の「(A)江別企業の活性化支援」については、当初話題に上っていなかった。というのも、(B)から(E)までの戦略テーマの中で地元の企業を支援していく様々な方策を入れたつもりであったが、それでは十分でないということで、新たに議論して最初の戦略テーマとして持ってきた次第である。
- 地域産業部会としては、短期、中期、長期の取り組みということでそれぞれハード、

ソフト、ハートづくりというよりも、むしろ農業、製造業、商業といった産業区分があるので、戦略テーマ別に説明したい。

- まず、最初のテーマ「江別企業の活性化支援」についてであるが、これは第4回部会で取り上げられて追加したものである。今江別にある既存の企業を積極的に支援していくような地域にしていこうというものである。今の江別の産業振興政策の中で、「江別市中小企業振興条例」というのがあり、そこに様々な支援制度があるが、それ以前に理念がまず必要ではないかということで、長期にわたって地元の企業を支援していくための理念を中心とした条例をまず制定してはどうかという意見があった。そして、様々なこの理念のもとに具体的な戦略があり、最終的には儲かる地域、儲けられる策をつくるための戦略方策というのを記載してある。例えば、江別市内の企業同士が様々な場でネットワークし、そしてコラボレーションし、一緒になって新しい協同事業を行う機会を行政がつくり、民間の人たちが活用するという場面が必要である。
- そして、冒頭で話した雇用の問題。江別市雇用創造促進協議会というのがあるが、これにもう少し利害関係者の方を入れて拡充し、より積極的に雇用を創出していくことも検討していくべきではないかという意見もあり、それが盛り込まれている。
- 産業を支える人づくりに関しては、大学と連携をしながら、もしくは地元の企業と連携しながら様々な就業教育をしていくということに記載してある。
- こういったことを短期、中期の取り組みで進めていき、ある程度儲かる地域になったら、諸団体や新しくビジネスをやりたい方、そして中小企業の方々が活用できるような、しかもワンストップでサービスを受けられるような施設をつくってはどうかという意見があった。
- 2番目としては、「6次産業の推進」である。江別市は、フードコンプレックス特区の一員であり、この制度を十分に活用して、今までの江別市の1次産業の付加価値を高めていくことを検討する内容を挙げている。具体的には、農業後継者を増やしていかないとならないし、市内には農業者を育成するような大学や学校があるので、こういったところと連携して、地元の農業を活性化させ、インターンシップなどを取り入れてはどうかということに記載している。
- もう一つ中期的に考えられるのが、最近のキーワードとして“スマート”という言葉があるが、スマートな農業ということで環境に配慮した農業、循環型農業、持続可能な社会を視野に入れた農業といったものを育成していくということ。その中には、「環境・文化部会」で出てきたような自然エネルギーの利用といったものがある。
- そして、消費者と生産者が連携して地元の農業を支えていく仕組みが重要である。江別市民がもっと農業に親しめる制度を推進してはどうか、というご意見をいただいた。
- 一方で、農業の付加価値化のために、新しい産業の育成でその推進力になるのが、大学の知的サービスや北海道の研究機関である。そういう教育・研究機関と連携しながら6次産業の付加価値化を高めていくことも必要である。
- 次に、戦略テーマの「地域流通のネットワーク化」では、高齢社会になって江別の公共交通が非常に弱いというご意見を「まちづくり部会」から伺ったが、これからの地域

社会では高齢者が増えていくことになるので、消費の機会をきちんと提供していくことが重要である。地域産業部会としては、商店街の活性化の一つとして市内に循環型バスを走らせてはどうかという意見をいただいたが、他の部会との関係から言うと、そこに病院も入れたり、他の公共施設も入れてはどうかと思う。市内を循環するための新しい交通システムに物流を組み合わせられないか、という意見があった。これを江別市でモデル事業としてできないかと考える。

- もう一つ、雇用を増やせないかということで、江別市はかつて川を中心とした物流の拠点であったが、高速道路のインターチェンジが現在2か所あり、その立地的な優位性を利用して、札幌市の平和にある流通団地が手狭になっていることから、その機能の一部を江別に持ってこられないかと考える。物流産業を江別で育てていき、物流産業も裾野の広い産業なので、様々な雇用を発生する。特に、道北圏からの物流の拠点になれないかということを経年の提言の中に入れてある。
- 次に、「観光資源のネットワーク化」であるが、江別の観光について87ページに観光のデータがあり、観光入込客数が80万人近い数字で記載してあるが、果たして江別は観光地というイメージがあるかということ、私はあまりそう感じていなかった。しかし、市民の方々の意見では、観光としてすごく良いものが江別にはあり、それが石狩川や千歳川といった河川であったり、屯田兵の時代からある古い建物であったり、そして農業も観光資源化できるということであった。江別にある様々な素晴らしい自然資源や文化的資源、こういうものをネットワーク化して、新しい観光として売り込んでいくべきではないか。それには、今の江別の観光推進の政策や事業ではなくて、ぜひ市民の意見、市民のパワーを活かしてほしい、という意見をいただいた。
- そして、「江別市の情報戦略」について、実は先ほどの「江別企業の活性化支援」のところにもまとめても良いのかもしれないし、他の部会で情報戦略ということがあるので、それと組み合わせても良いのかもしれないが、時間がなかったので（E）としてある。
- これは、江別市が持っている様々な情報をデータベース化して、活用していけるようにしていくものであり、それが結果的に地域づくりの意思決定のために必要な情報になっていくというものである。今ある情報をきちんと集約化して、データベース化して、そして更新していく。その一方で、もう一つの情報戦略というのは、いわゆるマーケティング的な視点で、“江別は地味なまち”ということと、“江別は素晴らしいまち”であるというように情報戦略として発信していく。戦略を持って江別市を売っていくことが必要であるということとまとめてある。
- 最後に、私見として部会の委員の方々といろいろと意見交換をして、新しい総合計画のためにこれだけ良い戦略テーマ提言の議論をしてきたのであるから、これをぜひ自分たちの手で実現していきたい。例えば、一番分かりやすいのが、「観光資源のネットワーク化」である。実際に、江別市にある素晴らしい自然資源や景観資源、一次産業の資源などについて、それを知っているのは江別市民であり、その人たちが自らそういったものを掘り起こして、プロデューサーとなって、札幌や本州、もしくは海外へ売っていくという場をつくっていただきたい。江別には観光協会があるが、そこに市民会議の人

たちが参加して、江別の観光関係の事業者だけでなく、市民として参加したいという意欲とパワーを活かす場を、行政がコーディネーターになってつくっていただければ、江別市ももっと素晴らしい産業振興ができるのではないかと思います。

地域産業部会のメンバーから補足意見を伺いたい。

<委員補足>

なし。

河西部会長：他の部会のメンバーから意見を伺いたい。

<地域産業部会提言に関する他の委員の意見>

なし。

■提言書全体の調整

佐藤議長：以上で6部会の提言発表が終わったので、全体の調整を行いたい。

1ページに「えべつ未来市民会議の提言にあたって」ということで文章を書かせていただいた。市民会議は、江別市の新しい総合計画の策定にあたってスタートしたものである。スタートは、平成24年2月1日で、今お話をいただいた「高齢化・市民活動」、「暮らし・定住」、「環境・文化」、「安全・安心」、「まちづくり」、「地域産産業」の6つの部会で具体的な意見を積み重ねて、今日で10回目となっている。

それから、市民委員38名、有識者委員6名で発足したところである。会議は全体会議が5回、6つの部会の会議が合計29回、延べ全体34回に及んで、部会で共通の課題として出された意見は「協働」であり、これが大切なポイントになっていると考えている。

そして、実際に会議を進めていく中で、いろいろな議論がなされ、大変であったと思う。先生方からも大変ご苦労されたということを知っている。その中で市民委員の方々に協力していただいて、想定外という話はしたくない、みんな想定しよう、ということでスタートし、いろいろなことを積み上げていったので、本当にご苦労様であった。

市民委員の皆様が、江別の将来のまちづくりについて真剣になって議論を進めて、今提言がまとまろうとしている。先ほどから先生方がお話されているが、まだここはスタートラインである。これから市民全体で協働の取り組みを積み重ねて、素晴らしい江別市をつくっていくということである。様々な受け皿を各部会でつくっており、しっかりとその内容が、そしてこの本気の提言が、新しい総合計画に反映されることを心より願っているという書き方をさせていただいた。

さらに、2ページ目で提言の構成について記載してある。部会からの報告を聞いてお分かりと思うが、6部会を設置しているので、6部会を中心に記述してある。それから、部会の提言の中の「まちづくり政策提言」と、「戦略テーマ提言」の考え方とその位置付けをここで説明し、先ほど「安全・安心部会」の佐々木先生からアルファベットが付けられているということでご説明があり、「まちづく

り政策提言」でアルファベットが付けられている部分は、「戦略テーマ提言」のテーマ名のアルファベットに対応している。また、6部会設置の考え方を2ページの下の方に図で載せてある。

全体的な話であるが、先ほどから重複しているテーマがあるということで、91ページに「各部会の戦略テーマ提言で連携が必要となる取り組み」としてまとめである。「協働」、92ページで「大学連携」、93ページで「情報発信」と「交通」、94ページで「定住」というキーワードで連携が必要である部分ということでここにまとめている。

95ページには、資料編がついている。97ページには委員皆様の名簿の掲載があり、氏名等の誤りがないかご確認をいただきたい。98ページは、えべつ未来市民会議の開催経過を記述してある。99ページは、えべつ未来市民会議の設置要綱である。

以上が、全体の内容となっているが、各委員からご質問、誤り等がないかなどを伺いたい。

<委員>

○ 質問であるが、この提言書は、市長や市役所の方が読む体裁で記述されていると思うし、手前味噌かもしれないが、内容もしっかりとしたものになっていると思う。「情報発信」ということが何度も出てきているので、一般市民の方へどういう形でこの提言書が提供されるのであろうか。例えば、市役所のホームページにPDFファイルで掲載されていても誰も見ないであろうし、悲しいと思う。もう少し、『広報えべつ』などで一般市民でも何が話し合われたかが分かるような形で、コンパクトにまとめた形のダイジェスト版というものをつくる予定はあるのかどうかを確認したい。

事務局：ホームページには掲載を予定しており、併せて『広報えべつ』に何らかの形で掲載させていただく予定であり、紙面の都合があるためどれだけ載せられるか分からないが、いずれにしても公共施設などで提言書を見ることができるというPRをしながら市民の皆様への周知を考えていきたいと思う。

佐藤部会長：他にご意見等はないだろうか。なければ、三好市長へ提言書を受け取っていただきたい。代表して私からお渡ししたい。

■佐藤議長から市長へ提言書の手交

■市長あいさつ

○ ただ今、佐藤議長より提言書をいただいた。佐藤議長からお話があったように、市民会議は、今年の2月に第1回目を開催し、今日で10回目となり、9か月の長期間にわたって開催していただき、誠にありがたいことである。

この市民会議の委員の皆様におかれては、仕事を終えてからの夜の会議、そしてさらには、休みの日にも会議があったと聞いている。非常に疲れた中で熱心に議論をしてい

ただいた。先ほど、提言の1ページのところにあるとおり、市民会議が決して順風満帆ではなかったというお話を伺った。おそらく、委員の方がご自分の考えていることをどう表現したら良いかというところで大変ご苦労されたことと思う。改めてお礼申し上げたい。

また、今回の運営に当られた佐藤議長、佐々木副議長、そして各部会の部会長におかれては、市民会議の他に部会長の会議にも参加され、様々なアドバイスを賜った。進行役としてご協力いただいたことに心から感謝したい。

先ほどから皆様のお話を聞いていると、様々なご意見があがっている。やはり、佐藤議長や各部会長からのお話にあるとおり、自治基本条例ができてからののはじめての総合計画の策定であり、そして、その基本が何であるかということ、やはり市民協働という意識、さらには、情報の発信や情報の共有ということであった。また、資源の活用という点について、自治会の活用や4大学などをもっと利用したら良いのではないかということなどが、市民の皆様からお出しいただいた意見として改めて認識した次第である。今回、市職員ではなかなか気がつかない新鮮で斬新なアイデアや提言をいただいた。是非ともいただいた提言を真摯に受け止めて今後対応してまいりたい。

7月に中学生、高校生、大学生と懇談をさせていただいて、将来の江別はどういうまちになってほしいかというテーマでお話しをさせてもらった。中学生や高校生の皆様からは、江別が住みやすいという意見をいただいたが、大学生の皆様からはやはり雇用が心配であり、雇用はどうなっているかとか、また駅周辺の活性化をしないとまちの活性化にならないのではないかと、という具体的な意見をいただいたところである。非常に活発なご意見を学生たちからいただき、江別をどうにかしようという強い気持ちを感じたところである。

そして、今日皆様から提言をいただき、いただいた提言については、江別の今後10年間の目指す姿を考えるわけであるが、その一つひとつを真摯に受け止めて、市の各部において検討の上、計画案を策定し、行政審議会の中でお示しして、本日いただいた提言の反映に努めてまいりたいと考えている。

その中で、短期的、中期的、さらには長期的な取り組みという時系列に分けて提言をいただいた。私の方におきましても、急を要する施策、長期的な展望に立って進める施策など様々な施策があるので、その状況に応じて計画案に反映していきたいと考えている。

最後に、委員の皆様におかれては、9か月間にわたってご熱心に議論していただいたことに改めて感謝を申し上げます。先ほど、本気の提言書というようにお伺いした。こちらでも本気で検討して進めてまいりたいと考えている。本当に長い間、お疲れ様であり、心からお礼申し上げます。

■その他（江別市行政審議会について）

佐藤議長：最後に、江別市行政審議会について事務局から説明していただきたい。

事務局：江別市行政審議会の資料について説明したい。江別市行政審議会は、ここの目的

に記載してあるとおり、市長の諮問を受けて、市民会議の提言を踏まえて、市役所の庁内検討委員会で作った新しい総合計画の骨子（たたき台）などについて、審議して市長に答申、意見を述べるための審議会であり、その設置が裏面にある条例で定められている。

この審議会の委員については、条例の中で「学識経験者」と定められているところだが、この市民会議の議論の中で、この提言を行ったあとも引き続き計画策定に関わっていくべきではとのご意見もあったことから、市民会議の委員の方に参加していただくことを考えている。

行政審議会の委員については、今のところ 15 名で検討しており、経済団体から 5 名、自治会や市民団体から 4 名、そして、このえべつ未来市民会議からは部会長から 3 名、そして市民委員から 3 名という構成を予定している。

その行政審議会の役割については、市の示したたたき台に対して、意見を述べるものであるため、審議会に入っている方には、この市民会議の提言がきちんと生かされているかどうかという視点からもチェックしていただきたいと考えている。そして、できれば、皆さんが揃われているこの場で行政審議会に参加していただく方を決定したいので、審議会に参加したいという方にこの場で立候補していただきたいと考えている。

ただ、人数が 3 名という枠なので、申し訳ないが、4 名以上の立候補があった場合は抽選とさせていただきたい。

行政審議会のスケジュールとしては、一番下にあるように年明け 1 月から 7 月頃まで月 1、2 回のペースで開催を予定しているので、どうぞよろしくお願ひしたい。

佐藤議長：今の説明について質問を受けたいがいかがであるか。

質問がなければ、ぜひ立候補したいという委員は会場の前方へ出てきていただきたい。

■行政審議会へ参加する委員の決定

6 名の立候補（①岸本 佳廣 委員、②諏訪部 容子 委員、③笹原 邦子 委員、④島本 和夫 委員、⑤草野 靖広 委員、⑥高儀 武志 委員）があったことから、当たり棒（赤いマークのある棒）が 3 本入った抽選箱により、①～⑥の委員の順番で抽選箱から棒を 1 本取り出して抽選を実施。

岸本 佳廣 委員、草野 靖広 委員、高儀 武志 委員の 3 名を決定。

佐藤議長：行政審議会の委員として、岸本委員、草野委員、高儀委員の 3 名が決定したので、今後、行政審議会でのこの提言書が総合計画に反映されるかどうかを見ていただきたいと思います。

最後に、長期にわたり皆様に参加していただき、心より感謝申し上げます。今後も江別のために頑張って「協働」を行なっていただきたいと思います。

それでは、これで、えべつ未来市民会議を終了する。